

令和4年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立庄内総合高等学校 通信制の課程

学校教育目標	1 計画的な学習を通して、自主性・自立性を養い、実践力を高め、自らの道を切り開くことができる「たくましい力」を身につけさせる。 2 豊かな心を育み、個性の伸長を図りながら、他人と協調していく生活態度を育てる。 3 勤労の意義を理解し、積極的に社会の進展に寄与する態度を育てる。 4 心身の健康管理に努めさせ、自己実現のための強い意志と持続力を培う。
学校運営方針	1 地域の期待に応え、評価と公開に基づく透明性のある学校づくりを推進する。 2 教員一人ひとりが積極的・主体的に学校運営に参画できる組織運営と教職員間の協力体制を構築する。 3 通信制の特色を生かした学習指導や、生徒の多様な能力・適性に応じた指導の充実を図る。 4 教員の研修・研究の機会を積極的に設け、実践的指導力の向上を図る。 5 教職員の倫理観の向上を図るとともに、働き甲斐ややりがいを持って教育に専念できる環境づくりを目指す。

達成度	A	達成
	B	おおむね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

		自己評価			学校関係者評価		総括	
項目	具体的方策	取組み状況・分析	達成度	次年度への改善点	意見・要望	評価		
1	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営方針等の共通理解のもと、協力・協働的体制の構築 学校運営におけるPDCAのマネジメントサイクルの機能化 保護者・地域が期待する教育活動への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の協働体制は概ね実現している。 新規業務の負担が大きく、単年度ではPDCAサイクルのバランスを欠く部分があったが、一つずつ具体的な課題の改善につなげている。 庄内総合高校移転に合わせ、各種の規定・ルールの整備、現状の改善に向けた更新等を進めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルの充実へ努め、校務・業務改善への組織的な取り組みを図る。 生徒・保護者、地域への情報発信の方策について検証を進め、本校通信制課程の周知に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校所在地が変わっても入学数に変動はなく、通信制の拠点として機能している。 生徒アンケートで、本校に入学して良かったとする回答が多く、地域や保護者が期待する学校運営がうかがえる。 他者を認め合う雰囲気が全体的にある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 庄内総合高校通信制の最初の一年であった。鶴岡南高校通信制から移動した351名の転入生に加え、昨年度に引き続き、89名という多くの入学生を迎え、活発な学習活動が継続された。 生徒の学習環境、生活環境の整備に努め、特に支障なく校舎の移転が進められた。 新高校への移転、新学習指導要領への移行など多くの変更点への対応から、PDC AのPDに重心が置かれる年であったため、CAのサイクルへつなげることを意識し、通信制課程における教育活動に充実につなげる。 入学生の増加、入学形態の変容、多様な生徒への対応等、地域の通信制教育の拠点としての要請に応え得る体制整備に向けた支援要請も重要な課題となっている。
2	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の状況に応じた学習指導の工夫 学習環境の改善 課題や評価の在り方の研究・改善 卒業生40名以上、単位修得率40%以上の達成 	<ul style="list-style-type: none"> 環境整備に努め、学習形態の変更点について周知を図り、活発な学習状況へつなげることができた。 卒業生の数は昨年度より11名減少したが、目標を十分に達成した。努力賞表彰者数は昨年度より5名減の46名、単位修得率は通年で目標を上回る50.0%だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の年次進行に伴い、各教科・科目の研究を進め、ICTの活用等、指導体制の整備を進める。 基礎学力定着や学習意欲向上に向けた指導体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 移転初年度で環境が変わることで心配されたが、生徒が学習に意欲的に取り組んでいるところが評価できる。 ICTの活用状況について確認できた。 個別の状況に応じた対応がされている。 自分で計画し実行する力が身につけて良い。 	A	
3	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路達成に向けた生徒一人ひとりの能力の伸長 就労支援を含めた組織的なキャリア教育 生徒、保護者の面談と適切な助言 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々に応じた適切な進路指導を行った。 コロナ禍、就労支援のためのキャリア教育については、内容や形態を工夫・変更して実施した。 進路目標達成に必要な能力の伸長を図るとともに、様々な情報提供を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路達成に向けたキャリア教育を充実させ、「キャリアパスポート」の効果的な活用法の研究を継続して行う。 特別な支援が必要な生徒や社会に出ることに消極的な生徒への支援体制について継続して研究・実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路が多様な中で意識向上のための工夫がなされており、評価できる。 多様な進路の実現に向けて努力している。 とどろき通信で進路関係のお知らせがあり助かる。 	A	
4	生徒・保健指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動、学校行事への参加状況を改善 全職員が共通意識を持ったルール、マナーの指導 生徒の抱える悩みや取り巻く環境の把握 生徒の相談等への適切な対応 特別支援教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍が続く中、内容や形態を工夫して特別活動等を実施し、生徒の貴重な活動や交流の場として成果につなげることができた。 生徒の声に耳を傾けながら、職員の情報共有を徹底させ、チーム対応や指導の一貫性につなげている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や学校行事等、体験的な学びの意義を認識させ、継続して参加を呼びかける。 全職員で生徒理解に努め、特別な支援を要する生徒への組織的・系統的支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事へ参加することで友達ができやすくなり、協調性や社会性が醸成されるので、積極的な参加を望む。 コロナ禍でもあり、支援の必要な生徒の増加も考えられる。保護者・生徒の相談にもしっかりと対応しているところが評価できる。 	A	
目標		<ul style="list-style-type: none"> 卒業生 40名以上 単位修得率 40%以上 	達成度	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生 45名(達成率113%) 単位修得率 50%(達成率 125%) 				

